

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年9月30日現在

今月の重点活動

■いちご 就農支援会議開催

9月28日、JA全農岐阜いちご新規就農者研修所において、各務原市に就農予定の研修生1名と関係機関が出席し、就農支援会議を開催した。

JAぎふからは、就農地の交渉状況、各務原市からは、補助事業など各種制度、農業普及課からは、就農計画の作成について説明を行った。

各務原市では、3年続いて毎年1名ずつがいちごで就農しており、農業普及課では、新たな産地づくりにつながるよう、関係機関と連携し、就農準備や定着に向けて支援していく予定である。



【就農支援会議の様子】

(園芸産地支援第一係・三和浩一)

新たなブランドづくり

■にんじん 第3回役員会開催

各務原市園芸振興会にんじん部会は、9月10日に、JAぎふ鶴沼支店において、第3回役員会を開催した。

部長はじめ各地区役員6名、JA支店、選果場担当者等が出席し、春夏にんじん栽培講習会の開催日程を決定した後、講習内容について検討した。また、今後の選果場の円滑な運営方向、部会員の栽培技術のより一層の向上等に向けて、活発な意見交換が行われた。

農業普及課では、にんじん選果場稼動3年目となる来年度産の春夏にんじんの高品質・安定生産・安定出荷に向けた支援を継続する。



【役員会の様子】

(地域支援第二係・近藤 徹)

多様な担い手づくり

■ブロッコリー ブロッコリー塾開催

9月5日、14日、JAぎふ黒野農産物流通センターと生産者ほ場において、第1回、第2回のブロッコリー塾を開催した。

第1回は、ブロッコリー栽培の概要と育苗に関する講義、第2回は、ほ場準備と定植に関する講義と実習を行い、実習の際には、受講生は熱心に生産者からの説明を聞いていた。

ブロッコリー塾は全4回の開催を予定しており、次回は、中耕や追肥等の管理方法について実習を行う予定である。

農業普及課では、引き続きブロッコリー生産者の確保に向けて支援を行う予定である。



【ブロッコリー塾の様子】

(地域支援第一係・鈴木郁子)

売れるブランドづくり

■羽島市水稻種子採種組合 水稻採種ほ場における出穂期審査実施

9月3日に、羽島市水稻種子採種組合の採種ほ場（小熊、足近、桑原地区、合計7.3ha）において、出穂期におけるほ場審査を行った。

ほ場審査当日は、審査員資格を持つ普及指導員が、JAの担当営農指導員（審査補助員）の協力を得て全筆を巡回し、異形稲株の有無、病虫害や雑草の有無等の栽培管理状況について審査を行った。



【採種ほ場の状況】

各ほ場とも生育の揃いは良いものの、台風による穂擦れが確認された。審査の結果、全筆合格としたが、農業普及課では、適期収穫・乾燥調製など高品質な種子生産に向け今後も支援を継続する。
(地域支援第二係・今井啓司)

■だいこん 祝だいこん栽培研修会開催

9月10日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの栽培研修会が開催され、生産者やJA担当者など約40名が参加した。

JA全農岐阜の担当者から、夏だいこんの生育状況等について情勢報告があり、JAぎふの担当者からは、今年のは種開始予定日や今年産の出荷見込みなどについて報告があった。農業普及課からは、昨年産の課題や出荷歩留まりが高かった生産者の栽培方法等の情報提供を行った。今年産の祝だいこんは、10月12日からは種を始める予定で、約52万本の出荷が見込まれる。

農業普及課では、巡回指導やは種1か月後と2か月後の生育調査を行い、栽培技術情報の提供を通じて、出荷歩留まりが向上するよう支援していく。

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

■えだまめ 後期目揃会開催

9月7日、JAぎふ島集荷場において、後期作型のえだまめ目揃会が開催され、生産者やJA担当者など約80名が参加した。

初めに、JA全農岐阜の担当者から情勢報告を受け、市場2社から販売状況などの情報提供が行われた。続いて、JAぎふの担当者から選果選別の徹底、出荷時の注意点などについて説明があり、最後に、農業普及課からは、台風通過後の栽培管理や病虫害対策などの情報提供を行った。

農業普及課では、品質の良いえだまめが出荷されるよう、関係機関と連携し、栽培管理等について支援を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【目揃会の様子】

■柿 出荷間近

岐阜県の主要農産物のひとつである柿の出荷がいよいよ始まる。これに先立って、岐阜市、瑞穂市、本巣市の各産地で出荷販売に向けた役員会が開催され、今後は出荷品質の統一化を図るため、出荷目揃え会が予定されている。

本年の柿の生育は、着果量、果実肥大ともほぼ平年並でここまで経過していたが、9月4日の台風21号により、落果やキズ・スレ果等の被害が発生し、生産者や選果場においては、例年以上に選果選別の徹底が求められる。柿の収穫出荷は、10月から着色良好で良食味の早秋、大玉で食感のよい太秋、中生の基幹品種である早生富有、11月の主力の富有へと続く。

農業普及課では、各品種ごとの生育調査を行い、各種会議における情報提供や、目揃え会における収穫出荷の注意点の説明など、高品質出荷に向けた支援を行っている。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子、西垣 孝)

■栗 出荷開始

9月に入って栗の出荷が本格化し、JAぎふの選果場も稼働を始めている。

今年は、7～8月の酷暑と干ばつによる品質低下、9月の台風の強風による落果や枝折れが多く発生したこともあって、全体に小粒傾向で、平年より集荷量は減少傾向で推移している。

農業普及課では、選別時の注意事項や害虫の発生状況等の情報提供するなかで、高品質出荷へ向けた支援を行っている。



【選果場での選別作業】

(地域支援第三係・宮木英有)